

催吐リスク PTX

胃 ram8/d1,15+PTX80/d1,8,15/c28d

薬剤名	投与経路	投与量	希釈液	点滴時間(分)	投与日(day)
クロルフェニラミンマレイン酸塩	注射	5	mg		1,8,15
ファモチジン	注射	20	mg		1,8,15
デキサメタゾン	注射	6.6	mg	生食 100 mL	30 1,8,15
サイラムザ		8	mg/kg	生食 250 mL	60 1,15
パクリタキセル		80	mg/m ²	生食 250 mL	60 1,8,15

内服薬

投与基準等

- II. 投与基準 (例: 白血球 $\geq 2000/\text{mm}^3$, 好中球 $\geq 1000/\text{mm}^3$)
- III. 減量基準 (例: Grade3 以上の好中球減少時、次回より投与量を80%に減量)

■ サイラムザ

1サイクル (Day 1 - Day 15) に投与するサイラムザの投与基準	
投与日	< Day 15 1回投与量 < 2g
サイラムザに投与する毒性/有害事象	グレード<3 又はグレード3未満の悪心、嘔吐、神経痛、疲労、発熱、頭痛

■ パクリタキセル

1サイクル (Day 1 - Day 8 - Day 15) に投与するパクリタキセルの投与基準				
項目	Day 1	Day 8	Day 15	投与基準
好中球数	●	●	●	$\geq 1.5 \times 10^9/\text{L}$
血小板数	●	●	●	$\geq 1.0 \times 10^9/\text{L}$
白血球数	●	●	●	$\geq 400 \times 10^6/\text{L}$
AST/ALT	●	●	●	$\geq 2.0 \times 10^3/\text{U/L}$
血清クレアチニン	●	●	●	血清クレアチニンの基準値以上の1.5倍
パクリタキセルに投与する毒性/有害事象	●	●	●	グレード<3 又はグレード3未満の悪心、嘔吐、神経痛、疲労、発熱、頭痛

■ 投与中止基準

上記投与基準を1つでも満たさない場合は、以下の順に従って投与を中止しました。

- サイラムザに投与する毒性の場合 (1サイクル 1回目)
 - サイラムザの投与を1週間延期し、サイクルの8日目 (及び15日目) に投与する。ただし、その場合はサイラムザに投与する毒性がグレード2未満あるいはグレード3未満 (悪心、嘔吐、神経痛、疲労、発熱、頭痛) まで回復している必要がある。毒性が8日目 (及び15日目) に回復していない場合は、サイラムザの投与を中止し、1週間延期し15日目に投与する。いずれの場合も、パクリタキセルの投与は、スケジュール通り実施する。
- サイラムザに投与する毒性の場合 (15日目)
 - 15日目にサイラムザに投与した毒性 (上記投与基準) が認められた場合、パクリタキセルはスケジュール通り投与し、サイラムザは1週間延期し22日目に投与する。ただし、サイラムザに投与する毒性がグレード2未満あるいはグレード3未満 (悪心、嘔吐、神経痛、疲労、発熱、頭痛) まで回復している必要がある。毒性が22日目に改善していない場合は、そのサイクルでのサイラムザの投与を中止し、次サイクルの1日目に投与する。ただしその場合も、サイラムザに投与する毒性がグレード2未満あるいはグレード3未満まで回復している必要がある。
- パクリタキセルに投与する毒性又は副作用発現時の場合 (1サイクル 1回目)
 - 悪心、嘔吐、神経痛、疲労、発熱、頭痛、上記基準値に到達するまで次サイクルの開始を延期する。ただし、サイラムザの投与は次サイクルが開始するまでスケジュール通り実施する。
- サイラムザ 8日目 - 15日目
 - 8日目又は15日目にパクリタキセルに投与した毒性又は副作用発現時 (上記投与基準) が認められた場合、パクリタキセルの投与を中止する。当該サイクル中の投与は行わない。
- サイラムザ 1日目にどちらか一方の薬剤 (パクリタキセル又はサイラムザ) が1回目投与から28日間経過後投与が中止された場合、その薬剤の投与を中止する。もう一方の薬剤は、必要と判断される場合、継続して投与される。

IV. 重大な副作用 (例:好中球減少 Grade3 以上37.5%

Grade3 以上

倦怠感 12%、高血圧 14%、好中球減少 19%、白血球減少 16%

添付参考資料(文献・ガイドライン・治験計画書・研究計画書)

Lancet Oncol. 2014 Oct;15(11):1224-35. 、適正使用ガイド

(以下輸液療法室記入欄)